

総務建設常任委員会視察報告

総務建設常任委員会は、去る6月20日から21日までの2日間、千葉県安房郡鋸南町及び長生郡睦沢町、茨城県鹿嶋市を訪問し、次のとおり視察を実施しました。

○視察日

令和4年6月20日（月）、6月21日（火）

○視察地

- 1 千葉県安房郡鋸南町 都市交流施設・道の駅保田小学校
- 2 千葉県長生郡睦沢町 むつざわスマートウェルネスタウン・道の駅・つどいの郷
- 3 茨城県鹿嶋市 いきいきゆめプール

○視察目的

各施設のオープンまでの経緯等について

○視察者

石岡実成委員長、伊藤航平副委員長、中村和雄委員、金崎ひさ委員
笠原俊一委員、近藤昇一委員、待寺真司議長（オブザーバー）
（随行：行谷友良事務局長）

○視察の概要

1 千葉県安房郡鋸南町

（1）町の概要

鋸南町は、千葉県南西部に位置し、鴨川市、富津市、南房総市に隣接する面積45.17k㎡、主要産業は農業（花卉栽培や酪農）と観光業が盛んなまちです。

観光スポットとしては、日本百低山に選定され、地獄のぞきで人気の鋸山をはじめ、「見返り美人図」で有名な菱川師宣の記念館、保田海岸などが挙げられます。

- ・ 人口：7,070人（令和4年7月1日現在）
- ・ 世帯：3,490世帯（令和4年7月1日現在）
- ・ 令和4年度当初予算規模（全会計8,429,512千円）
一般会計4,942,213千円

特別会計(3会計)2,640,526 千円

企業会計(2会計)846,773 千円

- 財政力指数：0.30(令和2年度)
- 経常収支比率：86.1%(令和2年度)
- 実質公債費比率：11.2%(令和2年度)
- 将来負担比率：38.9%(令和2年度)
- 議員定数：12名

(2) 都市交流施設・道の駅保田小学校の概要

鋸南町でも、少子高齢化により人口減少が進む中、町内に3校あった小学校を1校に統廃合するため、2014年3月で廃校となった旧保田小学校を都市交流施設としてリノベーションし、「道の駅保田小学校」として生まれ変わりました。

総事業費は約13億円で、財源は農林水産省の農山漁村活性化プロジェクト支援交付金、県補助金などで、町の負担は約5億円となりました。

建物の設計については、「校舎と防災機能を残す」ことを条件に著名な建築家の方々を審査員に迎えての公募を行いました。また、2次審査については、公開プロポーザル方式としたことで、町民の関心も高まり、町外に対しても事業が注目されるようになりました。

審査結果は、学校の雰囲気を残しつつ、新たな防災の拠点を提案した5大学、4事務所が選定され、2階の教室を緊急時の避難場所に転用できる宿泊室とし、体育館は、直売所として活用するものでした。

建設は、リノベーションなので、想定していなかった問題が発生し工期に遅れが出たり、新築より費用がかさむといった問題点もありました。

施設の特徴として、教室を半分に仕切った宿泊室、食堂には、黒板や整理棚など学校の面影を随所に残していること、太陽光発電設備と蓄電池、自家発電機の設置により、防災機能を強化していることです。また、町民や交流客の方々が集まれる場を設けたことで、災害時には、450名の方が利用できる避難所になります。

なお、学校備品を廃棄せず施設内で再利用しているため、コスト削減が図られ、来客者が懐かしさを感じられることができ、施設の魅力向上に繋がっています。

体育館を利用した直売所では、町内の農家で組織される出荷組合により、新鮮な農産物が出荷され、地元業者の弁当や菓子類も出品しています。校舎1階には、地元の飲食店を中心としたテナントが入り、アルマイト製の食器を利用した昔懐かしい給食も楽しめます。

当初、来客数 27 万人、売り上げ目標 2 億 7 千万円で設定していましたが、施設名称が「小学校」となっていることが珍しかったことから、テレビや新聞などメディアで多く取り上げられ、売上額は半年で達成し、1 年間で約 6 億円、来客数は約 30 万人となりました。

今後、廃園となる幼稚園を子育て世代が仲間づくりもできる育児支援施設に活用する企画も進めているそうです。



「みんなの家庭科室」で説明を受ける委員



道の駅保田小学校

◇委員所感

<石岡委員長>

嘗て、小学校だった建物をリノベーションし、道の駅として地域活性の一大拠点としたアイデアと実行力が素晴らしいと思いました。

また、このプロジェクトを進める中で、地域の関わりを深め、様々な意見を反映させ、公開型プロポーザルで事業を展開していったという所が最も興味深い点でした。

少子高齢化が進む中、これからの自治体が抱える公共施設再編に向けた取り組みは、正に自治体存続の根本となる部分です。財源だけでなく土地や環境の問題もあるので、全てが同じような流れに持っていけるものでもありませんが、民間と連携した方式を導入する事だけは必要不可欠なものだとも理解しています。

<伊藤副委員長>

廃校を再利用して道の駅にした保田小学校を視察。人口 7,000 人の鋸南町では人口減少の煽りを受け小中学校の統廃合が進む。東日本大震災や近年の大型

台風等での地域的な災害が頻繁に起き、人口減少の加速化も影響している。人口減少に歯止めをかけるべく観光から鋸南町の良いところを知ってもらう為にこの道の駅はできた。

統廃合した3つの小学校の中で、交通量が多くアクセスしやすい学校が保田小学校であった。全国的に道の駅が観光誘致策になる中で、保田小学校の取り組みは行政から民間の活力を存分に発揮しようと公開型プロポーザルが採用され、町民が傍聴できる形で全国から多数の申し込みがあり、鋸南町が考える内容と民間が道の駅を中身や施設の使い方までを提案するモノで、大学JVでアイデア出しされたモノが提案され採用された。

小学校跡地とあって、敷地の広さや施設の雰囲気、町民も集るアイデアとなっている。体育館での地場物やお土産の販売。教室を改装して様々なブースが凄い。

給食食器で食べられる飲食店やワークショップ、レンタルキッチン。学校機材が随所に散りばめられ、ピアノや平均台も廊下に設置してある。

そして宿泊施設にもなっている。教室が泊まれるように改装され鋸南町での宿泊体験を通じて鋸南町をもっと知ってもらい移り住んでもらおうとゴールを目指す。

また小学校ということもあり、災害対応にもぬかりはない。改装された廊下では大規模な災害時には避難場所としても活用される。電力や飲料水の確保もしっかりとあり、近年の大型台風等でも避難先として提供され、また地域を巻き込んだ避難訓練も行なっている。

鋸南町の小中学校の給食センターも併設され、行政と民間の活力が活かされた道の駅です。指定管理で5年間の契約だが、施設運用を開始する前から指定管理を入札で決定しており、プロポーザル決定後建設時から指定管理者が共同で改装作業に入っていて、運用時のスムーズなオペレーションや使い勝手の良い施設改修をしていた。

行政から指定管理者への予算執行は運用開始から数年間のみで、指定管理者が民間の知恵とやる気で道の駅保田小学校は維持運営されている。

全国的に人口減少が進み、また公共施設の統廃合や複合化が行政運営の流れにある中で、保田小学校の取り組みは地域の理解と行政の勇気、民間活力の創出が成功したといえる。教室を使つての賃貸化は、鋸南町での仕事起こし、住民定着、地域活性化を見事に成功させていると思います。

小学校の統廃合や複合化した行政施設へは大きな財政出動が考えられるが、今ある行政施設の耐震・耐久・改修・長寿命化の課題と施設維持の予算、また利用率や使い勝手の悪さ、既存施設には無い魅力的な施設を要望する町民。複合化が得るメリットとデメリットを議論する時期に葉山町は来ていると思いま

す。

<中村委員>

視察したのは月曜日だったが、週明けの平日だったにも拘わらず、賑わいを感じさせる場内の雰囲気だった。

当施設は、閉校した小学校をリノベーションして地域活性化を目指す都市交流施設・道の駅として、2015年12月開設された。

校長(駅長)の大塚克也氏から開設までの経緯と施設の現状の説明を受けた。

町の公開プロポーザルの結果、応募37のうちから6社を選び、公開審査の結果、5大学・4事業所で構成されたN.A.S.A設計共同体に決定。運営は共立メンテナンスが指定管理により行うことになった。氏が強調していたのは、設計の段階から運営会社となる共立メンテナンスの大塚氏が建築チームの一員として参加し、経営の視点を織り込むことができた点だということで、説明を受けながらこのことの重要性を感じた。

さらに氏によれば、道の駅が二極分化し淘汰される時代にあって、事業の成否は「場所」と「完全特化」にあるということだった。道の駅保田小学校は小学校にトコトンこだわって差別化に成功したと、氏は分析していた。毎朝9時に事業を開始し、朝のラジオ体操を行っているということで、これには地元の人々が参加しているとのことである。

開設後3年間は、年間1千万円ほどの指定管理料をもらっていたが、現在、指定管理料は受けておらず、収益の中から一部を町に収めているとのことである。なお、リノベーションは決して安上がりではなく、却って金が掛かって大変だということだった。

<金崎委員>

20日はまず、千葉県安房郡鋸南町の「都市交流施設・道の駅保田小学校」を訪ねました。鋸南町の町長が保田小学校の卒業生で学校統合の際、校舎を残したいという思い入れがあり、完成されたものでした。交通の便も良く、多くの人々に愛される施設となっています。

地域の方々も活用できるスペースもあり、私たちが説明を受けた部屋は調理室だった場所で、調理台など最新機器にリニューアルして、要望があれば貸し出しをするそうです。

2階は教室をそのまま残した宿泊施設となっており、災害時には廊下のスペースに400人が避難でき、広域避難所となります。

また、給食の食器を使つての懐かしいメニューを出すレストランも楽しみの一つです。

そして、ランドセルや賞状を形取った包装をしたオリジナル商品の販売など手がけていますが、鋸南町の産業（海の幸）に関わる商品は販売していないそうです。それは街中に出て買ってもらい、地域と共に繁栄することを基本にしているからとのことでした。

町は指定管理費として3年間、予算化しておりましたが、現在では指定管理費はゼロで、売り上げからの町へのバックがあるまでになったとのこと。巨費を投じての事業でしたが、長い目でみると、歳入になり、地域の活性化にも繋がる良い事業例だと感じました。

<笠原委員>

2014年廃校となる小学校を道の駅として、2015年12月再出発、各教室1階はレストランや各商店の出店エリア・展示室や多目的使用スペース。2階は宿泊施設や浴室・2階廊下は町民の緊急避難時に活用できるよう拡張。体育館は野菜や花など各物産販売場。

保田漁港が近いので魚介製品の販売はないとのこと。地域で愛された小学校を残し地域の拠点整備として民間企業に事業委託をしている取り組みで、机やいすすべての学校機材を活用し地域に愛される活用方法として生まれ変わった。

道の駅としては大変ユニークな存在でした。

<近藤委員>

廃校が予定されていた小学校を、道の駅として再生し、成功した例です。

これまでも何度か訪れた、道の駅保田小学校でしたが、経過についての説明を受け、改めてその着眼点に感心しました。

学校の規格はほぼ全国画一なもので、当時の姿を極力残すことで、訪れる人たちに郷愁を思い起こさせる効果があり、リピーターになるといいます。

今後、葉山町でも公共施設の再編が行われる可能性もあり、今回の視察を参考にしたいと思います。

2 千葉県長生郡睦沢町

(1) 町の概要

睦沢町は、千葉県南東部に位置し、茂原市、いすみ市、大多喜町、一宮

町、長南町、長生村に隣接する面積 35.59 k m²、主要産業は第 1 次産業である天然ガス事業と農業が盛んなまちです。

観光スポットとしては、いちごやブルーベリー狩りを楽しむことができる農園や、国の重要文化財にも指定されている木造大日如来坐像、今回視察で訪問した、むつざわスマートウェルネスタウン・道の駅・つどいの郷が挙げられます。

- 人口：6,805 人（令和 4 年 6 月末現在）
- 世帯：2,811 世帯（令和 4 年 6 月末現在）
- 令和 4 年度当初予算規模（全会計 5,545,429 千円）
 - 一般会計 3,477,000 千円
 - 特別会計(4 会計)2,068,429 千円
- 財政力指数：0.41(令和 2 年度)
- 経常収支比率：86.0%(令和 2 年度)
- 実質公債費比率：5.5%(令和 2 年度)
- 将来負担比率：43.4%(令和 2 年度)
- 議員定数：14 名

（２）むつざわスマートウェルネスタウン・道の駅・つどいの郷の概要

睦沢町では、人口減少に歯止めをかけるべく、移住・定住を促進するため、①健康に暮らせる、②安全・安心に暮らせる、③子育てがしやすい、④働く場があるの 4 点を柱に、まちづくりをするため、公民連携で事業を進め、若い世代に移住してもらえるよう地域優良賃貸住宅をはじめ、防災広場、交流施設等を兼ね備えた、むつざわスマートウェルネスタウン・道の駅・つどいの郷を令和元年にオープンさせました。

本施設は、PFI 法に基づく民間提案制度による日本初の道の駅整備で、事業費は約 28 億円、拠点内には、睦沢町等が出資により設立された新電力会社による地場産天然ガスを利用した熱電併給を導入しています。

また、災害発生時の避難、支援拠点として、重点道の駅にも指定されており、防災広場には、ヘリコプターの発着スペース、備蓄倉庫等があり、一般的な道の駅よりトイレ数が多く設置されているほか、天然ガス採取時に発生するかん水を利用し、電力を作るために発生するガスエンジンからの廃熱で加温する温浴施設も併設しています。

令和元年 9 月 1 日の町民向けの先行開業期間から間もない 9 日未明、台風 15 号が千葉県を直撃し、甚大な被害をもたらしました。特に、強風による

大規模かつ長期的な停電は睦沢町全域におよびましたが、停電発生から5時間後には、道の駅と施設内の賃貸住宅は、電力の供給が再開されております。また、温浴施設のシャワーの無料開放、携帯電話の充電、トイレ等も提供し、約1,000人が利用したそうです。

今後の取組みとして、「SDGs」を掲げ、これまでの取組みの連携・新たな事業の創出を進めながら全国、世界へと繋げていくことを目指しています。



道の駅むつざわ



無電柱化された賃貸住宅

◇委員所感

<石岡委員長>

「道の駅むつざわ」での事業は、ベースは道の駅として地域の拠点とし、地域特有の天然ガスを有効利用したエネルギー利用に温浴施設、防災広場、賃貸住宅を絡めた複合的な先進事例事業だと思います。

広大な土地や、天然エネルギー資源など、特有な条件があつての事業なので、当町に置き換えた際のイメージが、リンクさせづらい部分もありますが、学ぶべき観点は多々ありました。それは、町の環境や特性をしっかりと理解し、基本的な固定概念では到底辿り着けない理想や可能性を追求しながら、官民が一体となって事業を進めたという所です。

衣食住全てを満たし、6次産業や防災、ドッグヤードやBBQ広場、コミュニティスペースまで網羅された魅力あるまちづくりは、真似るべき点も見受けられました。

前段の保田小学校もそうですが、どちらも行政主導というよりは、町の問題、共通課題として、柔軟な発想と多くの意見を集約出来た結果成し得た事業だとも思います。

<伊藤副委員長>

睦沢町の人口は 7,000 人弱。人口減少が止まらない睦沢町の最後の一手がこの『むつぎわスマートウェルネスタウン』移住促進を目指すこの取り組みは、新しい公営住宅の取り組みと感じました。

以前一般質問でもしましたが公営住宅は全国的に今や福祉事業から移住促進の要素が強い。過疎化が進む行政課題に行政が住宅を提供することで移住者を増やす。新築戸建ての公営住宅がとても魅力的です。

鉄筋コンクリート構造のエレベーター無し 2DK の昭和な公営住宅ではなく、新築木造戸建て庭付き電気代安のオール電化住宅。天然ガスが噴き出る地域のメリットを最大限に活かしたこのスマートウェルネスタウンは、天然ガスによる発電をしながら、住宅に電気を供給。安価で提供することができ公営住宅の最大のメリットだ。

発電時に発生する熱を利用して道の駅に公共浴場も併設されている。発電所や焼却炉がよくやる方法である。住宅街と道の駅が一体の地域にあり、また大型スーパーやホームセンター等も近隣に建設され、町役場より街中心地との印象がある。

産業の改善や新規事業を生み出し、オリーブ畑からオリーブオイルの抽出を企画挑戦している姿に感銘を受けました。

公営住宅は町外からの移住者を増やす目的で設置されていて、衣食住を行政が考えることはこの時代において必須だと感じ、またその運営や企画には民間の活力も必須である。

エネルギー会社や道の駅の運営まで、町内の企業体で運営し、資金面も行政依存をしない方法が取られている。開発や地域の理解、町民の利便性と移住促進と町内環境の改善など、行政と民間が同じ方向を向き互いにバランス良く提案と実行が起こせる空気感とやる気に感銘しました。

<中村委員>

睦沢町は房総半島の中央部より少し東南に位置した、人口 6,817 人(令和 4 年 4 月現在)、総面積 35.59 km²、令和 4 年度予算は一般会計総額が 34 億 77 百万円の町である。葉山町と比べ、予算規模でほぼ 3 分の 1、人口で約 5 分の 1 の町である。

本事業は、「道の駅」及び「地域優良賃貸住宅」整備を一体的に進め、町外との交流を促進しながら、町民誰もが健康で幸せに、また安心して暮らし続けることができるまちづくりを目標に睦沢町が実施したもので、睦沢町の「総合戦

略」の中核的事業に位置づけられた、持続可能なまちづくりの基幹となるプロジェクトである。事業の内容は、直売所(つどいの市場)、温浴施設(つどいの湯)、レストラン(トラットリア ドゥーエ)、カフェ(オリーブの森のカフェ)、加工施設(オリーブの搾油)、サイクルステーション、ドッグランからなっている。

事業方式は PFI 事業で、プロジェクトファイナンスによって資金調達を行っていることから、SPC(特別目的会社※)むつざわスマートウェルネスタウン株式会社を設立して設計建設から維持管理・運営を行っている。

(※)プロジェクトファイナンスとは、特定事業に対して融資を行い、そこから生み出されるキャッシュフローを返済の原資とし、債権保全のための担保も対象事業の資産に限定する手法。

また、地元で採れる天然ガスを活用したエネルギーの地産地消、地域活性化のため、自治体 PPS 事業体「(株)CHIBA むつざわエナジー」を設立し、道の駅及び隣接する町営住宅 33 戸に地中化された電線で電力を供給するとともに、ガス採取後のかん水をコジェネの廃熱で加温して温浴施設で利用している。稼働 8 日後に発生した台風 15 号で一帯が数日間停電した中、5 時間後に復旧して発送電を開始し、数百人の町民にスマートフォンの充電やシャワーを提供できたということである。

当事業は、人口・財政規模に比すと巨大な事業である。当日の説明者によれば、この事業の推進にあたっては議会の反対もあったという。町長の強い思いがあったようだ。民間の活力を活用した様々な手法による大規模投資の可能性を示す例として、大いに参考になった。本町での可能性を探りたい。

<金崎委員>

午後から千葉県長生郡睦沢町の「むつざわスマートウェルネスタウン・道の駅・つどいの郷」の視察をしました。2.8 ha の広大な土地に住宅エリアと道の駅エリアがあり、小型ボックス工法での無電柱化の街を形成しています。

エネルギーの自給自足で、開園直後の台風被害の際、停電になることもなく、地域の住民、延べ 800 人以上が道の駅のシャワー、トイレ、携帯電話等の充電などを利用し、温浴施設は無料開放したそうです。これからの行政運営においては災害時対応を念頭におくべきだと再認識した視察でした。

住宅エリアは定住促進の願いを込めた町営住宅で、結婚していることが入居条件の一つに入っています。20 年間住み続けると、建物は無償譲渡するとのことでした。庭先が道路に繋がっていて、広々とした空間で何組もの母子がゆっ

たりと遊んでいました。

<笠原委員>

「むつぎわスマートウェルネスタウン拠点整備事業」視察感想を一言でいえば、行政が民間企業と共同でまちづくりを模索し、食住環境整備、人口誘致などの研究実験施設。

町の中心地でない郊外に作られた街で人口誘致策や車社会の利用で、新たな地域づくり。JR茂原駅とJR上総一ノ宮駅、茂原長南ICなど外房に至る街道が交差していく位置にあり、町の主要産業は農業・製造業で、葉山の行政面積の約倍の35.59㎢。人口は6,817人（令和4年4月）です。

道の駅としてAゾーンには案内所、地域物産販売所、カフェレストラン、日帰り天然温泉施設があります。Bゾーンには加工施設やサイクルステーション、ドッグランがあります。幹線道路の向かいには大型ホームセンター等もあります。また、Aゾーンの大型駐車スペースの向こうには、33戸のむつぎわスマートウェルネスタウン住宅が、塀や柵もなく芝生続きの公園さきにあり、海外映画のミニチュアのような住宅街があります。熱エネルギーは天然地下ガスや太陽光を利用しており、33戸の住宅施設は新婚家庭から高齢者専用住宅（3戸）まであり、児童公園や集会所施設もあります。

各住宅には複数台の駐車場と芝生の庭があり、インフラ整備もされています。ABゾーン全体が、非常時でもエネルギーの供給が可能として防災拠点の位置づけもされています。

2年前に会派視察をしましたが、施設等変化はないようですが睦沢町全体の人口減少は続いています。

<近藤委員>

むつぎわスマートウェルネスタウン・道の駅・つどいの郷の地下には「南関東ガス田」が広がり、そのガスと太陽光を利用した発電によってすべての電気が賄われ、防災拠点にもなり、2019年9月の台風15号による長期的な停電の際にも、ここだけは5時間後に電力供給が再開されている。この「定住促進住宅」にも国内2例目となる低コスト化工法を採用した無電柱化で給電されている。

葉山町を考えた場合、防災拠点における給電は、ほとんどが発電機頼みとなっていることから、防災観点からも自然エネルギーの活用が求められます。

また、無電柱化の推進についても、これまでは狭い道では無電柱化は地上施設が設置できないため、無理だと主張してきましたが、国が低コスト化工法を

推奨し、睦沢町では積極的に採用し、地上に施設のない無電柱化を実現していることから葉山でも採用できるのではないかと思います。

3 茨城県鹿嶋市

(1) 市の概要

鹿嶋市は、茨城県東南部の鹿行（ろっこう）地域に位置し、潮来市、神栖市、行方市、銚田市に接する面積 106.04 k m²、東側を太平洋、西側を北浦及び鱒川に挟まれた東西約 10km の細長い地形となっています。

また、神栖市にまたがり鹿島臨海工業地帯が形成され、主要産業となっている鉄鋼業・化学工業などのメーカーが集まる工業都市となっています。さらに、Jリーグ屈指のクラブチーム鹿島アントラーズのホームタウンでもあることから、スポーツのまちとしても全国に知れ渡っています。

観光スポットとしては、鹿島神宮、カシマサッカースタジアム、北浦などが挙げられます。

- 人口：66,098 人（令和 4 年 7 月 1 日現在）
- 世帯：28,692 世帯（令和 4 年 7 月 1 日現在）
- 令和 4 年度当初予算規模（全会計 42,217,679 千円）
 - 一般会計 23,980,000 千円
 - 特別会計(7 会計)12,696,689 千円
 - 企業会計(2 会計)5,540,990 千円
- 財政力指数：0.99(令和 2 年度)
- 経常収支比率：88.8%(令和 2 年度)
- 実質公債費比率：6.4%(令和 2 年度)
- 将来負担比率：56.2%(令和 2 年度)
- 議員定数：20 名

(2) いきいきゆめプールの概要

鹿嶋市の大野区域の 4 小学校と 1 中学校（計 59 クラス、約 1,100 人）の屋内プールが、建設後 40 年以上経過しており、老朽化により修繕費用が嵩むことなどが懸案となり、議論を重ねた結果、5 つのプールを集約して屋内プールを建設し、一般の方も利用できるよう整備をしました。

平成 27 年度に基本計画を策定し方針を決定、平成 29 年度には、基本・実施設計を経て、工事に着手、そして平成 31 年 3 月に完成し、翌月 4 月に供用

が開始されました。

試算時の費用として、建設には 720,000 千円、人件費を含む年間維持管理費が 40,000 千円ほどとなり、集約した屋内プール整備の方が高くなる結果となりました。しかし、通年で学校授業及び一般の方が利用可能となることや水中運動等を通して、生活習慣病予防の他、運動習慣を身につける契機となり、結果医療費の削減効果が期待できるなどの理由から、集約した屋内プールの整備に踏み切っています。

実際の費用として、建設においては、748,440 千円（財源は、国庫補助金 97,365 千円、起債額 574,900 千円）で、管理運営は、指定管理方式をとり、令和元年度実績で 46,026 千円となっております。

使用については、5月から11月（夏休み期間中は除く）の午前中に学校が貸切で使用しています。

また、学校からプールまでの移動は、市所有のバスを利用するほか、民間バスの借り上げも行っています。

なお、年間の利用者数は、令和元年度、約 25,000 人（開館日 279 日）であったそうです。

◇委員所感

<石岡委員長>

「いきいきゆめプール」は、小中学校の屋外プールの老朽化に伴い、1カ所に集約して屋内プールを新築し、午前中は学校プールとして、午後は一般の住民も通年利用できる利便性の高い複合型のプールです。

現在、葉山町の小学校4校、中学校2校の屋外プールも、それぞれ築40年以上経過し、老朽化が進んでいて、都度修繕しながら利用しているところですが、既に、長柄小学校・一色小学校では、逗子市の民間プールにバス移動しながら水泳授業を実施しています。健康増進的役割としても有効なプール施設と考えれば、今後は、学校プールとしてどうするか？という考えより、「いきいきゆめプール」のように、学校施設と一般町民が利用できる融合施設として、学校施設を軸とした公共施設再編計画を立てるべきと強く思いました。

また、この「いきいきゆめプール」は、行政が新築した後、NPO法人かしまスポーツクラブ(総合型地域スポーツクラブ)に指定管理を任せています。

当町においても、現状にあった葉山町体育協会が総合型地域スポーツクラブとして独立する初年度の年となっており、今後の町のスポーツ推進の観点からも、同じような動きを取っていくべきものと思っています。

今回の視察を通して、また、毎度ながら強く感じるのは…
いずれも、柔軟な発想と地域(住民)の意見の集約、それと、携わる人間のやる

気、熱意、情熱無くしてまちづくりは成し得ないという事です。

古い考え方や慣例にとらわれる事なく、時代に即した判断と、常に町民主体のまちづくりを考え、行動に移す…といった、とてもシンプルで当たり前な事を進めていく事が、これからの葉山町にも必要なのだと思いましたし、そこに導くリーダー的存在が不可欠なのだと思いました。

<伊藤副委員長>

小中学校の施設プールの老朽化に伴い、地域の公共プールと小中学校のプールを共同で使える『いきいきゆめプール』は様々な課題を同時に解決する手段でもある。

各学校で維持運営するこれまでのプール施設は、校舎同様の老朽化が進む。

プールの防水性やポンプユニットの維持管理、コンクリートの劣化を総合的に見ても各学校での維持運営は難しい。また夏の短い期間での授業回数にも限界があり、水泳授業としての成果が高いとは言えない。そして、授業を教える先生は水泳が得意とは限らない。安全確保の為に先生の加配も必要になってくる。全国的に民間プールに授業を委託するケースも増えてきているが、予算や先生の随行・交通手段の確保も課題だ。

葉山町には町営プールが無い。逗子市か横須賀市の市営プールか町外の民間プールに行くしかない。

発電所も焼却炉も無いので、熱源確保が難しい一面もあるが、町民が気軽に泳げるプールがあることで、健康増進や水泳競技の活性化・コミュニティの活性化が期待できる。

小中学校のプール施設の老朽化によるプール確保の課題と町民プールの新設の課題を同時に考えることは必然なのかと思う。

むつぎわスマートウェルネスタウンの天然ガス発電はとても魅力的で、天然ガスが噴き出る地域だからこそそのアイデアではあるが、都市ガスが普及する葉山町ではガス発電と温水化も可能ではある。

近年の電気温水器の性能も高まっていて、また断熱構造の建物も性能が高くなっていることで、低コストかつ自然エネルギー源での発電から温水プール施設も十分に可能と思う。

葉山町が海の町と言われているが、どれくらいの人が海に泳ぎに行ったり釣りをしたり、ヨットに乗っているだろうか。海岸に落ちたり災害時に助かる為の泳ぎができるだろうか。

雪国に行けば授業でスキー・スケートがあるように、葉山町での泳ぎを推進することは必然で必須だと思います。海での授業も検討すべきだが、水泳の授業が年間を通じて行われる環境を作ることは葉山町の子どもたちが、みんな

誇りを持って泳げると言える環境になってほしい。

小中学校の既存プール施設が現在 2 校中止になっている現状を踏まえ、あとの 4 校の老朽化をどうするか、町民プール施設の新設の議論を加速させていけたらと思います。町民プールが複合化し、ジムや会議室・コミュニティスペースなども併設できたらもっと町民活動が活性化するのではないかと。

小中学校のプール授業が町民プールに移行して、交通手段を確保する場合でも、コミュニティバス(スクールバス、民間借上げ)が必要となり、授業外では町民の利便性を高めることもできる。

小中学校のプール授業の課題だけでなく、交通課題にも効果があります。

<中村委員>

鹿嶋市大野区域の 5 つの小中学校の屋外プールが、建設後 40 年以上経過していたことから、5 つの学校屋外プールを新築するか、集約して屋内プールを建設するかの議論を行い、その結果 5 つの屋外プールを集約して一般市民の利用も含め通年利用できる温水プールを整備することになった。2019 年 3 月に完成し、同年 4 月から供用開始。運営は、NPO 法人かしまスポーツクラブ(総合型地域スポーツクラブ)が指定管理で行っている。

建設費はどちらの場合も 7 億円余で大差ないが、維持管理費用は屋内温水プールの方が高くなる。市の試算で屋外プール 5 校の場合は年間 1,700 万円だが、いきいきゆめプールは人件費が約 2 千万円かかることから、令和元年度の指定管理料は 42,182 千円となっている。年間 2,500 万円ほど多くかかる計算になるが、通年かつ一般市民利用ができ、さらに総合型地域スポーツクラブの拠点確保と安定運営につながっていることを考えると、良い選択だったと思われる。

小中学校の授業として利用するときは、市のバスまたは民間バスで移動をしている。移動のロスが気になるところだが、1 回の授業を 2 時限使って行うことにより、却ってまとまった時間に集中してできる効果があるということであった。本町の場合、民間バス利用でより安い経費でスムーズに移動できるルール・態勢づくりが必要であろう。

<金崎委員>

21 日は茨城県鹿嶋市の「いきいきゆめプール」を視察しました。葉山町の抱えている問題解決のため、参考になる事例だと思つての視察です。

鹿嶋市大野区域の 5 つの小中学校の屋外プールが老朽化し、その解決のため、学校プールを廃止し、一般の方も利用可能な屋内温水プールを整備しています。

名称は一般公募とのことです。NPO法人に指定管理をし、年度始めまでには、各学校の話し合いのもと、年間スケジュールを決め、各学校の利用日は他の人の利用はありません。空いている時間帯には、一般の方は有料で利用でき、NPO主催の教室等も企画されています。

指定管理料は約4,200万円、使用料収入は約400万円での運営となっています。やはり、災害時の近隣住民へのシャワー開放も企画に入っておりました。多くの葉山町民の望みである町営プールの建設は長年の懸案事項です。そして、老朽化により閉鎖された町立学校プールもあり、鹿嶋市の「いきいきゆめプール」のように葉山町も一歩踏み出して欲しいと心より思い、議会力を発揮したいと考えています。

<笠原委員>

小学校4校・中学校1校で共同使用の屋内温水プール。授業のない平日休日は民間使用。5校の屋外プールの老朽化から廃止して共同利用として開設。

維持コストの比較では5校の新設より多少増えるが、年間通して使用可能となることや民間利用の幅も広がったとの説明がされた。

25mのプールは7コース。そのうち3コースは低学年児童用として75cmかさ上げして当初より建設。一般的には競技種目や用途により、深さ調節の機材を入れるとのことでしたが、初めからのため水量は多少少なくコストも下げることができたとの説明でした。

プールの運営や管理も鹿嶋市を参考にしたりするべきと思う。また夏期の短い期間の使用から、年間を通じて子供たちと町民の利用が可能となった事例として大変参考になった。

<近藤委員>

いきいきゆめプールは市内の小中学校のプールの老朽化により屋内温水プールを新設して、5月から11月の平日の午前中に共同利用により水泳授業が行われ、それ以外は市民プールとして利用されています。

葉山町でも学校プールの老朽化に伴い、一部の学校は逗子市の民間スポーツクラブで水泳授業を開始していますが、これは公の放棄ではないかと思われま

す。各学校にプールを新設するのが本来の在り方だと思いますが、効果的な活用を考えた場合、鹿嶋市の選択は正しいと思います。しかし、葉山町の場合の隣の民間スポーツクラブの活用はあまりにも安易な方法ではないかと思われま

す。公の責任を考えた場合、町民体育館も町民プールもない町としては、鹿嶋市のように学校も町民も共同使用できる施設づくりを考えるべきではなかった

かと思われます。



視察の様子



プールサイドで説明を受ける委員

以上、ご報告いたします。

令和4年10月11日

総務建設常任委員会